

特別活動

令和5年度 授業改善のポイント

※次に示すポイントは、学級活動の内容（2）、（3）に関するものです。

- (1) 事前アンケートを行うなどして、題材に関わる学級の現状を把握するとともに、児童生徒一人一人の問題意識を高め、題材（課題）を自分事として捉えられるようにする。
- (2) 児童生徒を主体として、問題の原因や解決に向けた方向性を探る活動を行うようにする。
- (3) 多様な視点で話し合ったり、専門的知識を有する人材や地域の方などから得た情報を活用したりして、自分に合った具体的な実践目標や解決方法を意思決定できるようにする。
- (4) 意思決定したことを基に、実践して振り返り、実践意欲の継続や目標の見直しを図ることができるようにする。

キャリア形成と自己実現を目指す学級活動(3)の指導の工夫

【指導事例】

中学校第2学年 題材名「『なりたい自分』を目指して」〔学級活動(3)イ〕

<本時のねらい> 将来に向けた自己の生き方を踏まえ、「なりたい自分」に必要な力を高めるために、現在までの状況を振り返り、グループ等で話し合う活動を通して、今自分が実践したいことについて意思決定することができるようになる。

	生徒の活動/やり取りの場面等	指導上の留意点等
問題の発見・確認	事前 ・4月に記入した「秋田わか杉『キャリアノート』」の「目標を決める」を確認した上で、これまでの取組を振り返りながらアンケートに記入する。	ポイント(1) 「キャリアノート」を基に、これまでの取組状況を振り返り、本題材に向けた問題意識を高めるようにする。
	本時 1 職場体験活動を想起するとともに、自己のキャリア発達に関する事前アンケートの結果を共有する。 2 本時のめあてを確認する。 「なりたい自分」に近づくために、高めたいことや、そのために今できることを考えよう。 3 自己のキャリア発達に関する現在の状況を確認して、「なりたい自分」に近づくためにどのような力を高める必要があるか見通しをもつ。 4 社会人のインタビュー動画を視聴する。 5 グループで学校や家庭で取り組めることについて話し合う。	ポイント(2) ICTを活用して一人一人の高めたい力や全体の傾向を共有することにより、同類の生徒同士でグループを編成し、共通の視点を基に意見交流できるようにする。 ポイント(2)(3) 必要な力を高める取組の例を示し、解決に向けたイメージを共有できるようにする。
解決方法等の話し合い	本時 「協調性」を高めたい生徒同士でグループを構成し、意見交流をしている場面の例 「なりたい自分」に近づくため、更に高めたい力について、お互いに紹介し合い、その後で、学校や家庭で取り組めることがないか、話し合ってください。 「協調性」を高める取組として、どんなことが考えられるだろうか。 自分の考えと異なっても、相手を否定しないことが大切だね。 話し合いの場面などで、相手の考えのよさを認めたり生かしたりして、折り合いをつけるようにすればいいのかな。 みんなが意識してそれらのことに取り組めば、更に「協調性」が高まっていくと思うよ。	
	本時 6 グループ活動を通してまとめた意見を、全体の場で紹介し合う（質疑応答含む）。 7 これからの学校生活や家庭生活の中で自分が取り組むことについて、意思決定したことを学級活動シートにまとめ、ペアで紹介し合う。 僕は人と関わりながら協力して行動できる人になりたいです。そのため、行事や係活動に進んで協力するのはもちろんですが、授業では、友達の発言をしっかり聞いて、納得したことや異なる考えを積極的に伝えるようにしたいです。	ポイント(3) 「どの場面で、何をどのようにする」などの話型を示すことで、実践的で評価しやすい取組となるようにする。
解決方法の決定	本時 ・期間を設定し、意思決定したことを実践する。実践したことを振り返り、必要に応じて見直しをする。 ・実践を継続しながら定期的に振り返りを行う。 ・本題材で使用した学級活動シートを、「キャリアノート」に貼付するなどして、次の取組に生かす。	ポイント(4) 取り組んだ結果だけでなく過程を見取って励ますなど、実践を継続したり目標の見直しを図ったりできるように支援する。
実践振り返り	次 次の課題解決へ	